

あいちトリエンナーレ実行委員会 2019年度決算見込み

(2019年11月末現在)

○ 収 入

(単位：千円)

区分	決算見込額	31年度予算額	増減額
1 事業収入	266,682	196,000	70,682
2 負担金収入	783,287	823,246	△ 39,959
愛知県負担金	612,263	652,222	△ 39,959
名古屋市負担金	171,024	171,024	0
3 広告・協賛金収入	94,041	69,000	25,041
4 諸収入	1	1	0
収入合計	1,144,011	1,088,247	55,764

○ 支 出

(単位：千円)

区分	決算見込額	31年度予算額	増減額
1 事業費	1,059,091	1,069,765	△ 10,674
現代美術	655,069	657,186	△ 2,117
舞台芸術	224,514	220,297	4,217
ラーニング	25,864	26,649	△ 785
連携事業	97,367	97,534	△ 167
広報PR	56,277	68,099	△ 11,822
2 管理費	4,256	4,256	0
3 予備費	0	14,226	△ 14,226
支出合計	1,063,347	1,088,247	△ 24,900

○ 収支差額

80,664 千円

(1) 現代美術

国際展	<ul style="list-style-type: none">・ 国内外の 66 組のアーティスト・団体の作品を展示し、最先端の現代美術を紹介しました。・ 愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）、豊田市（豊田市美術館及び豊田市駅周辺）での作品展示など、広域に展開しました。
映像プログラム	<ul style="list-style-type: none">・ 国内外の 14 組のアーティスト・団体の映画作品 15 本を、愛知芸術文化センターを中心に上映しました。

(2) 舞台芸術

パフォーミング アーツ	<ul style="list-style-type: none">・ 国内外の先鋭的な演劇などの作品を、愛知県芸術劇場を中心に名古屋市内及び豊田市内で 14 演目上演した。・ そのうちの 5 演目は、「エクステンション」として、「あいちトリエンナーレ 2019」国際現代美術展の参加アーティストが、展示空間から活動の場を「拡張」し、作品をめぐるレクチャー形式のパフォーマンスや、作品を集団で鑑賞・議論する場（アッセンブリー）をつくる企画を実施した。・ 複数演目を集中的に上演するフォーカス期間（8 月 2 日～4 日、9 月 5 日～8 日、10 月 11 日～14 日）を設定し、国内外から集まる演者と観客、美術と演劇、劇場と都市空間を横断するプログラムを展開した。
音楽 プログラム	<ul style="list-style-type: none">・ 愛知芸術文化センターにて、美術と音楽の垣根を越えた音楽プログラム「あいちトリエンナーレ 2019 MUSIC & ARTS FESTIVAL」等を開催しました。また、ロックバンド「サカナクション」が通常の公演とは趣向の異なる“空間インスタレーション”とも呼べる独自のライブパフォーマンスを展開しました。さらに 四間道・円頓寺地区でも、「デイリーライブ」等を開催しました。（入場者数：46,902 人）

令和元年度 事業報告書

〈2019年11月末時点〉

あいちトリエンナーレは、この地域の文化芸術を活発化させ、経済面のみならず文化芸術面でも日本や世界に貢献し、国際社会から真に尊敬される魅力的な地域づくりを目指していくため、地元の自治体、経済界、報道機関、学識経験者等による実行委員会を組織し、平成22年度に初回を開催した。

4回目となる令和元年度は、「情の時代」をテーマに、国内外93組の参加アーティストによる先端的な現代芸術やパフォーマンスアーツのほか、音楽プログラムの上演など様々なプログラムを実施した。

1 あいちトリエンナーレ 2019 開催概要

名 称	あいちトリエンナーレ 2019 / Aichi Triennale 2019		
テ ー マ	情の時代 Taming Y/Our Passion		
開 催 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。 ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。 ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。 		
芸 術 監 督	津田大介氏 ジャーナリスト／メディア・アクティビスト		
会 期	2019年（令和元年）8月1日（木）～10月14日（月・祝） [75日間]		
会 場	<p>■名古屋地区 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）</p> <p>■豊田地区 豊田市美術館及び豊田市駅周辺</p>		
最終来場者数	670,546人（速報値）	経済波及効果	算定中

(3) ラーニング

<p>アート・プレイ グラウンド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者の鑑賞体験をより豊かにできるような環境づくりとして、「アート・プレイグラウンド」を5拠点にて展開しました。 ・会場ごとに、あそぶ、はなす、つくる、もてなす、しらせる、とのテーマを設け、来場者が創造性を発揮したくなるようなプログラムを用意しました。 ・愛知芸術文化センターにおけるダンボールを使った公園のような空間では、身体を思いきり動かして遊ぶだけではなく、来場者もその場を形作る一員になることで、創作活動に参加していただきました。 ・鑑賞体験を共有できる交流の場を開き、鑑賞者が自身の考えを発表するプログラムや、作品から受けた印象を表現活動に活かすことができるプログラムを展開しました。
<p>アーティスト 派遣事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストが県内の小学校5校へ出向き、「特別授業」を実施し、児童とともにダンボールを使った作品制作を探究していきました。これを活かし、来場者の感性を刺激する公園のような空間を「あいちトリエンナーレ 2019」の会場に作り出しました。
<p>学校向け 団体鑑賞 プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の児童・生徒に現代美術を楽しんでもらうため、ガイダンスや作品鑑賞ツアーなどを行いました。(参加者数 54校 1,639人)
<p>ボランティア 研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話型アート鑑賞のエッセンスを加えた新たな研修内容によって、アートの専門知識が無くても十分に楽しむことができるよう、来場者の鑑賞のための環境を整えました。 (ボランティア登録者数 1,219人)
<p>トリエンナーレ スクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レクチャーとディスカッションを組み合わせた「トリエンナーレスクール」を、会期中は形態を変え、参加者が主体となりテーマについて深く対話を重ねるプログラムとして、6回開催しました。

(4) 連携事業

<p>モバイル・ トリエンナーレ</p>	<p>「あいちトリエンナーレ 2019」参加アーティストのうち19組が、主に本展とは異なる作品を中心とした52点を、県内4ヶ所の文化施設などで巡回展示しました(入場無料)。</p>
<p>舞台芸術公募 プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画公募により選考された15組の地元文化芸術団体などと共催で、舞台公演を行いました。(応募数:27の団体・個人) ・音楽・舞踊・演劇などさまざまなジャンルの舞台公演を行い、16公演で5,249人の入場者があった。

芸術大学連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレ 2019」会期中に、地元芸術大学（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学）と連携したプロジェクト、『U27 プロフェッショナル育成プログラム 夏のアカデミー 2019「2052 年宇宙の旅」』を「アートラボあいち」で開催しました。
芸術祭等連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレ 2019」と同時期に開催される、他の芸術祭等と連携して、相互に広報展開を図りました。 連携した芸術祭等（開催地） <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内国際芸術祭 2019（香川県、岡山県） ・Reborn-Art Festival 2019（宮城県） ・中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2019（岐阜県） ・森、道、市場 2019（愛知県）
連携企画事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレ 2019」と同時期に愛知県内で開催したトリエンナーレのテーマや企画等と連携した内容で実施した事業を「連携企画事業」とし、相互に広報展開を図りました。
パートナーシップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化芸術団体や民間企業、自治体などが行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互に広報展開を行いました。 ・2018年8月1日から2019年7月31日までの募集期間で、273件を決定しました。

（5）広報・PR

記者発表会、記者等への情報提供、取材への対応、広告用印刷物・PR動画の作成、Webサイトを用いた広報、関係機関と連携した広報、各種メディア広告等により、多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信された。

2 その他

次のとおり実行委員会運営会議等を開催。

開催日	行事名	場所	内容
平成31年 4月26日(金)	参与会議	愛知芸術 文化センター	あいちトリエンナーレ2019の進捗状況について
7月8日(月)	運営会議	書 面	平成30年度事業報告及び収支決算について